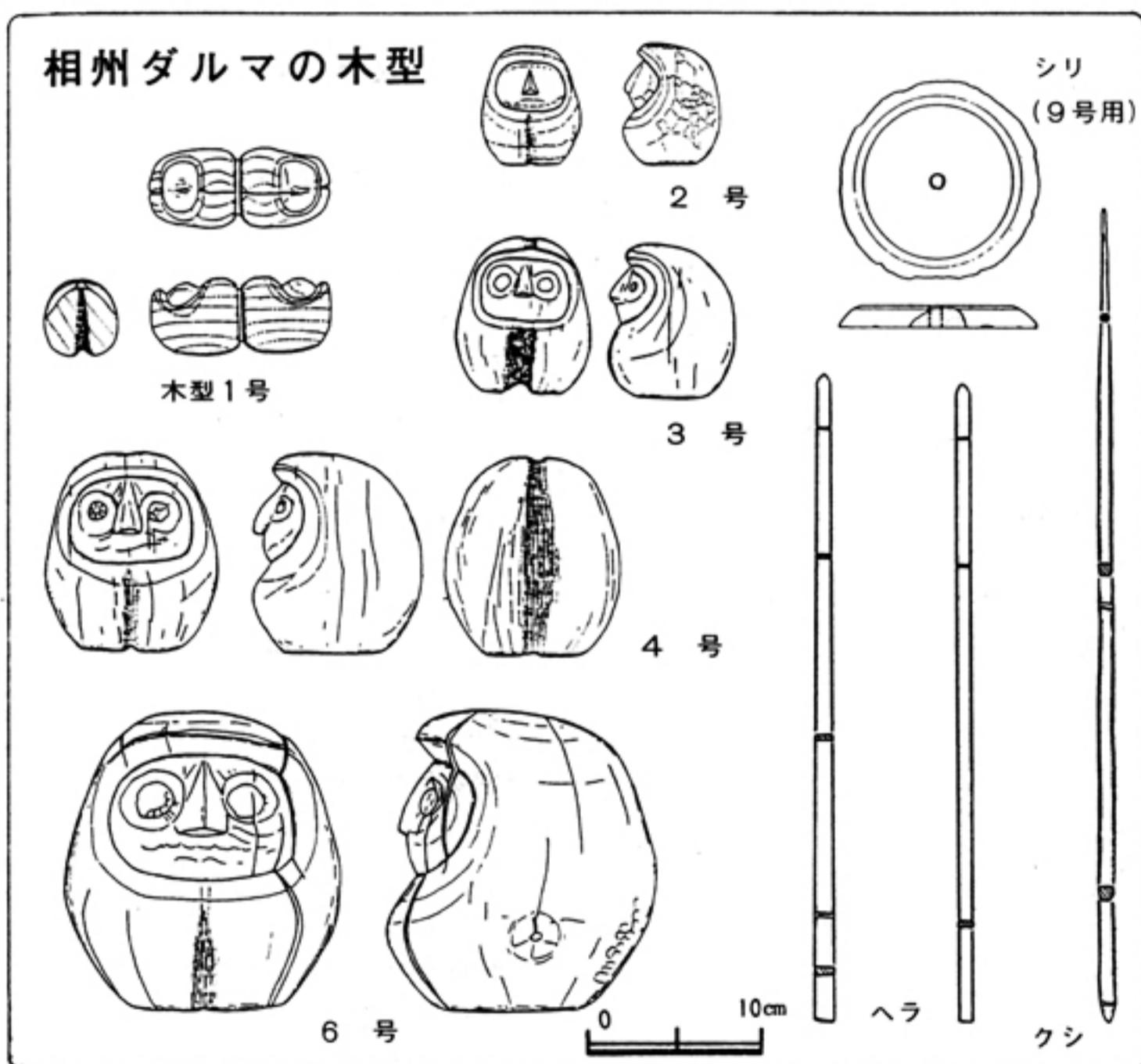


収蔵資料の紹介⑥ 相州だるま



上の図は平塚市四之宮の長島国男氏(長島達磨屋本店)から寄贈されたダルマの木型、シリ、ヘラです。平塚では四之宮を中心に、数軒のダルマ屋があり、それぞれ年末から正月にかけて、近郷近在の年の市や社寺祠堂の祭礼・縁日で売られています。

平塚のダルマ作りは、明治30年代に八王子から伝えられ、初めは現在のダルマより細長く、衣を着ているようで、顔も小さかったといわれています。ダルマ作りの手順は、上図の木型に張り子

紙を水張りし、自然乾燥させ、さらにこの上にワンプという紙を貼ります。次に木型の底の紙を円形に切り抜き、底から前腹部、背中から前頭部まで小刀で切り、木型と張り子の間にヘラを入れて張り子をはがします。そして、張り子の切れ目に紙を貼ってつなぎ、底部に粘土製のシリを糊付けし、下塗り(ピンク色の糊粉)、上塗り(赤い顔料)をし、ダルマ顔面に糊粉(白)を塗ってひげや模様を描いて出来上りです。

(学芸員 小川直之)

♠ ♣ 1月の行事 ♣ ♠

1	火	(元日)(休館日)
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	プラネタリウム、古文書講読会
6	日	プラネタリウム
7	月	(休館日)
8	火	
9	水	
10	木	デッサン教室
11	金	デッサン教室
12	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会
13	日	プラネタリウム、自然観察会
14	月	(休館日)
15	火	(成人の日・休館日)
16	水	
17	木	
18	金	星を見る会
19	土	プラネタリウム、古文書講読会
20	日	プラネタリウム
21	月	(休館日)
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会
27	日	プラネタリウム、地層観察会
28	月	(休館日)
29	火	
30	水	
31	木	(休館日)

●プラネタリウムの話題

ハレー彗星 Part 3

長いだ円の軌道を76年で1周するハレー彗星が、次の冬には、明治43年以来、ひさしぶりに地球に接近します。そのようすをお話ししましょう。

★☆☆行事案内☆☆★

●星を見る会「冬の星座と星雲・星団」

星座をおぼえて、大きな自然と親しくなりましょう。また、星雲や星団のかすかな姿を、望遠鏡で眺めてみましょう。

日時 1月18日(金)18時~20時

場所 博物館科学教室・屋上

参加自由。当日科学教室にお集まり下さい。

●体験学習№89「画集を作ろう」

私たちの身のまわりに氾濫する絵の印刷物などの美術情報をきちんと整理し、画集としてまとめてみませんか。紙くずとして捨ててしまう雑誌・カレンダー・色刷り新聞の中から、心に残るものを切抜き、自分の選んだ画集として仕立ててみましょう。

対象 一般成人

日時 2月20日(水)21日(木)
10時~16時

材料費 1人2,000円

申し込み 往復はがきで、博物館までお申し込み下さい。〆切は1月20日。申し込み多数の場合は、抽選により30名までといたします。

●寄贈品コーナー

全国各地181点のダルマ(故、町田久爾・照雄氏のコレクション)と、平塚市四之宮等で作られている相州ダルマ及びその木型を展示します。

●移動博物館の日程

今年度の移動博物館の日程が、次の通り決まりました。ナウマンゾウ化石や野鳥写真の展示、星を見る会などを行ないます。

	星	ゾウ	鳥
松原公民館	2/2		3/16~17
金田公民館	2/16		
旭北公民館	2/23		2/22~24
花水公民館	3/2		
吉沢公民館		3/7~8	

時間、会場等の問い合わせは、各公民館または博物館学芸係(☎33-5111)へ

☆☆☆☆☆☆ 星の動きを見よう ☆☆☆☆☆☆

暗くなると、東の空に雄大な姿をしたオリオン座が輝いています。たてにまっすぐ並んだ三つ星が印象的ですが、夜9時頃に南天高くかかった時の三つ星はななめ横になっています。オリオンはどんな経路をたどって南の空に移ったのでしょうか。

○方がくをたしかめておこう

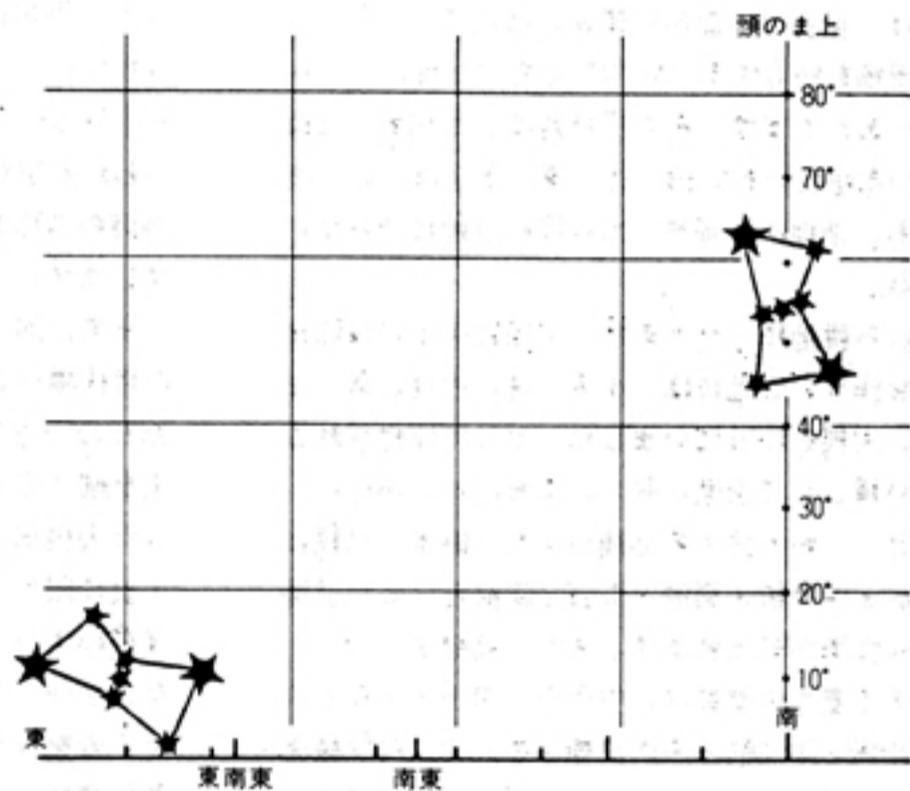
東西南北を正しく知るには、方位じしゃくでたしかめるのが一番です。その時に、遠くに見えるたてものや鉄とうを目じるしにおぼえておけば、次からは、じしゃくを使わなくても正しい方がくを知ることができるようになります。

北極星を見つけられるようになれば、もっと正しく北の方がくを知ることができますね。

○オリオンのうごきをみよう

方がくをたしかめたら、オリオンが東の空のどのあたりにいるかはかります。地上のけしきと地面からのだいたいの高さをはかり、右の図のようにスケッチをとります。とくに三つ星のかたむきに注意して正しく書きこみます。これを2時間にいちどずつ、3回くらいやりましょう。

次に、この3つのオリオンのうごきを、線でむすびます。まっすぐの線でいいのかな？



この記ろく用紙は20度の間かくで目もりがついています。うでをいっばいにはばしたところで見ると、にぎりこぶし1つぶんは、そのはばが10度くらいになります。これを利用してしらべることができます。

★オリオン座が東からのぼる時こく
1月はじめ 午後6時
おわり 5時

★ま南にくる時こく
1月はじめ 午後10時
おわり 9時
2月はじめ 8時
おわり 7時
3月はじめ 6時

●星を観察するときは

- かぜをひかないように、ひるまより1まい多くふくを着て外に出よう。
- なるべく見はらしがよく、近くにがい灯などの光のないところを選ぼう。
- かい中電灯には赤いビニールテープをはって暗くしておこう。
- 正しい方がくをたしかめてから見るようにしよう。

1. 江戸時代の農作業と作物

江戸時代は、農業生産を主力とした社会でありながら、100年、200年、300年とさかのぼって、その当時の農作業の方法、作付される作物の種類と品種、農業技術、肥料など、日常的な農業生産の様子を知ろうとした時、史料は少なく、知ることのできる事柄は、ごく限られたものになってしまいます。

今から300年ほど昔の元禄年間、南金目村堀之内にすむ宮田元右衛門家には、当時、同家の保有する田畑に作付する作物の種類とその品種、作付面積、収穫量を記録した史料が残されています。同家は、南金目村旗本船橋領の農民で、三町七反余の田畑を保有する、村内でも有力な農民であった事がわかります。その所持地は、水田を片岡境、金目川左岸のいあい田、島ノ腰、下河原という所に持ち、畑地は片岡や千須谷境の台地に持っていました。

それら耕地に、たとえば、水田には米と裏作に大麦を作り、畑地には、小麦、稗、大豆、粟、なすび、大根を作っていました。そして作付される稲の品種として永楽、弥六、こちつこ、小みの、わせ弥六、おく弥六の品種があり、餅米の品種に佐野餅、伊勢餅、粟餅、笠餅、新餅といった品種があった事が知られます。また、元禄14年(1701)麦まく覚には、中甲山、田子久保などの地名の畑六反六畝歩の所に稗・粟・大豆の収穫後、大麦を蒔付けています。ところで、この覚書には、麦を蒔く前に肥料として「いわし入」とあるように、すでに干鰯が導入されていた事がわかり注目に値します。何故なら、当時の肥料は、多く、菜蚕豆・菜豌豆・苜蓿などのいわゆる肥料が一般的で、干鰯などの金肥の導入は希な事と考えられていたからです。そんな訳で、この宮田家が所蔵する作付け記録は、300年前の米の品種や肥料の事などわかる貴重な史料という事ができます。

ところで、こうした作付け記録の意義は、記録が残された当時の耕地の利用状況を知ることができることにあります。今から120年ほど前、真田村旗本武田領名主市川家に残る作付け記録には



(写真) 田へ取水するため、堰を作る人々。

大麦・唐豆・かい豆・菜種・木綿・きび・小麦・粟・小豆・大角豆・えんどう・さつまいもなどの作物について、3年間にわたる作付け順を保有耕地毎に記録しています。たとえば、寺尾前という所にある畑七畝歩について、万延元年には唐豆を作り、翌年には豆と大麦、翌々年には、木綿と唐豆を作ったという記録になります。また、今から150年ほど前の天保年間、当時の農作業の方法がわかる史料が残されています。それによると、当時の農作業は格別に忙しいとして次の様に伝えられています。

まず、銘々が作る田地を耕し、苗代を作る。その苗代場へこやしを入れて種おろしをする。種おろしの一方で、耕した田畑を「こきり」といって土を細く砕く作業に入る。それより畑地に作っていた大根草・そら豆・えんどうをこやしとして男・女に限らず背負い田に入れる。この頃になると昼夜の別なく忙しい状態という。続いて大根草などを作っていた畑地を耕し、一方で菜種・大麦・小麦を取り入れる。この頃は、老人・子供まで農作業に加わる。次に耕した畑に大豆・小豆・きび・稗・粟・木綿その他を蒔付け、すぐに田植にとりかかり、半夏生(夏至から11日目)までに田植を終え、畑地へ蒔付けた大豆などにこやしを入れ春の農繁期が終るといふのです。

かつての農作業は、多くの人手を必要とし、また共同作業を中心に進められていきます。今日、その多くを直接、見聞する機会も少なくなりました。まして江戸期の地域の農業生産に係わる具体的な姿を知る手立ては、より少ないといえます。その中であって、田植に先立ち金目川より取水するための作業は、数少ない事例として是非一見に値します。(学芸員 土井 浩)